



[対象]

全教科

小・中学校の
教員

課題解決能力や探究心を育てる

教育実践 計画募集

2022年度 ソニー子ども科学教育プログラム **小・中学校の教員向け**

小・中学校の教員を対象として「教育方針と授業計画」を募集し、研究助成金を贈呈します。

将来を担う子どもたちに必要な資質や能力を考え、日頃から指導の改善や創意工夫を行っている先生方のこれからの教育方針と授業計画を募集します。小・中学校における授業実践の計画をテンプレートに沿ってまとめてください。

テーマ	「子どもたちに必要な課題解決能力や探究心を育てる」
対象	国・公・私立の小学校、中学校(特別支援学校等を含む)の教員
内容	課題にもとづいた教育方針と授業計画(全教科対象)
課題	夢と好奇心と高い志を持ち、未知のものを探究し、新しいものを創造して いこうとする資質や能力の育成
募集期間	2022年8月1日(月)~2022年8月31日(水) 15時送信完了分まで
応募方法	専用応募フォームから送信
助成金	入選者へ10万円
発表	2023年1月中旬以降 当財団ウェブサイトにて発表予定
審査委員長	御手洗康 学校法人共立女子学園 学園長 理事長、元文部科学事務次官



公益財団法人
ソニー教育財団

募集内容

テーマ

「子どもたちに必要な課題解決能力や探究心を育てる」

内容

将来を担う子どもたちに必要な資質や能力を考え、日頃から指導の改善や創意工夫を行っている先生方のこれからの教育方針と授業計画を募集します。全教科対象です。

課題

これからの時代を生きていくためには夢と好奇心と高い志を持ち、未知のものを探究し、新しいものを創造していこうとするなどの資質や能力が求められます。こうした資質を伸ばし、能力を育成するための教育方針と授業計画について提案してください。

- ・研究目的が課題に即していれば、将来を担う子どもたちに必要な資質や能力の詳細については課題以外のものであっても差し支えありません
- ・全教科対象です。

募集要項

受付期間

2022年8月1日(月)～2022年8月31日(水) 15時 送信完了分まで

募集対象

国立、公立、私立の小学校、中学校、特別支援学校等の教員

- ・管理職(校長、副校長、教頭)の方は応募できません。
- ・学校全体、あるいは学年・学級・教科部会単位で応募できますが、応募は1校から1件のみです。
- ・2021年度ソニー子ども科学教育プログラム「教育実践論文」で優秀校・最優秀校を受賞した研究代表者は応募できません。

助成内容

入選者 研究助成金 10万円 使用用途の指定はありません。
全応募者 ソニー製品

応募方法

当財団ウェブサイトよりテンプレートをダウンロードして作成してください。
作成したファイルをPDFに変換し、当財団ウェブサイトの応募フォームよりお送りください。
応募の際に必要な情報(論文以外)は、フォームに直接入力していただきます。

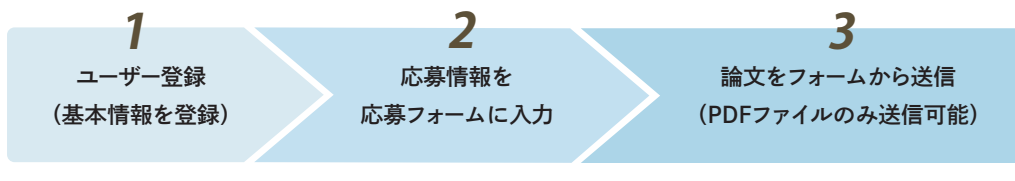
- ・応募には当財団ウェブサイトのユーザー登録が必要です。
- ・応募完了後、送信した情報の変更はできません(論文の差し替え含む)。
- ・内容に不備がある場合は受理できません。また論文は返却しません。

応募URL



<https://www.sony-ef.or.jp/program/plan.html>

応募の流れ ユーザー登録フォーム・応募フォームは2022年8月1日公開予定



ご応募いただく論文および関連情報について、以下の点をあらかじめご理解・ご了承の上、ご応募ください。

- ・論文、応募者氏名、学校名、所在地、研究内容などの関連情報は、当財団が、成果の還元、普及や、広報活動のために使用、公開させていただきます。
- ・論文を本プログラム以外で使用、公開、出版、掲載等することを希望される場合には、事前に当財団にご連絡の上、許可を得ていただきます。
- ・応募情報(論文含む)は、当財団が、本プログラムに関する審査結果の通知、各種行事の案内、その他の連絡・確認のために使用させていただきます。
- ・ご応募いただく論文は、関連するすべての権利(本文および使用された写真等にかかる著作権、ならびに上記の当財団による使用等を許諾する権利を含むがこれに限らない)を、応募者が保有しているものに限ります。

提出物の 内容と 評価の観点

現在の子どもたちの状況や経緯などから自分なりの研究課題を設定し、独自性のある工夫された授業実践の計画を①～④の項目ごとに示した内容に沿って記述し、各項目の分量目安を参考に全体をA4判10ページ以内にまとめてください。

① 育てるべき資質や能力 1ページ程度

自分で設定した将来を担う子どもたちを育てるべき資質や能力について、その必要性を踏まえて記述する。

評価の観点 明確性、必然性、論理性、こだわり(信念、想い)など

② 子どもたちの現状 1~2ページ程度

子どもたちの置かれている環境や状況や学習レベルなどを客観的に把握することによって収集した情報に基づき、子どもたちの現状について記述する。

評価の観点 客観的分析、裏付けになる情報とその信憑性など

③ 教育支援の方針 2~3ページ程度

収集した現在の情報に加え、過去の実践経験や知見(失敗)なども踏まえ、教育支援の方針を記述する。

評価の観点 妥当性、必然性、将来性、着眼点など

④ 授業計画と準備状況 3~4ページ程度

教育支援の方向性をもとに、「自分がいつ、何をどのように行うのか」具体的な実践や行動に落とし込み、来年度以降の授業計画と準備状況を明確に記述する。

評価の観点 計画の実現性、継続性、具体性、独自性/新規性、汎用性など

※分量は目安であり、規定ではありません。

作成規定

当財団ウェブサイトにあるテンプレート(Microsoft Word)をダウンロードして作成してください

- A4判サイズで最大10ページ
- 文字サイズ:本文/10.5ポイント以上、図表/8ポイント以上
- 図表の挿入は本文を補完するためのものに限る
- 参考・引用文献がある場合は本文中に明記
- 作成したファイルをPDFに変換し、応募フォームよりお送りください

審査委員会

審査委員長	御手洗康	学校法人共立女子学園 学園長 理事長、元文部科学事務次官
審査委員	渥美雅子	弁護士
	清原洋一	学校法人秀明学園 秀明大学 学校教師学部 教授
	山下修一	国立大学法人千葉大学 教育学部 理科教育 教授
	西谷清	公益財団法人 ソニー教育財団 元理事長

入選発表

2023年1月中旬以降 発表予定。応募者には、郵送で結果をお知らせします。

成果発表

入選者には以下の成果発表を行っていただきます。

- 提案した計画(もしくはその一部)を実施し、当財団が2023年度に開催する「子ども科学教育研究全国大会」のポスターセッションにて成果(経過)発表を行っていただきます。
- 入選した論文は当財団のウェブサイトに掲載し、一般公開します。

・「子ども科学教育研究全国大会」については、当財団のウェブサイトをご覧ください。

留意事項

- ソニー子ども科学教育プログラム「教育実践論文」へ応募した研究代表者は、同年度の「教育実践計画」へは応募できません。
- 他に応募したものの重複・二重応募は、審査対象外とします。

趣旨

現在日本は、経済のグローバル化や人工知能の進化、そして少子高齢化など、様々な急速な社会的変化に直面しています。さらに、より高度な情報・知識に基づく多様で高い付加価値の提供が求められる社会状況の中で、子どもたちが生き抜き、人生を切り拓いていくために求められる資質や能力を育むことはとても重要です。教育課程においてその資質や能力を育むことに積極的に取り組んでいる先生を応援いたします。

2021年度入選者

佐々木雄一郎(福島県)
福島市立大森小学校

沼尻淳(東京都)
学校法人新渡戸文化学園 新渡戸文化小学校

古野博(東京都)
学校法人成城学園成城学園初等学校

津田真秀(京都府)
京都教育大学附属京都小中学校

花田峻介(福岡県)
北九州市立祝町小学校

(敬称略)

ソニー教育財団の活動 — 60年以上に亘るソニーの教育助成 —

ソニーの創業者井深大の教育への思い「戦後の日本の復興のためには理科教育が最も重要である」という考えに基づき、1959年に「ソニー理科教育振興資金」を開始しました。その活動は子どもたちの感性・創造性・主体性の育成を目指した「ソニー子ども科学教育プログラム」へと発展しました。現在は小・中学校の教育実践、幼稚園・保育所・認定こども園の「科学する心」を育む保育実践の募集を行い、さらには2021年度から小・中学校の教職員を対象とした「教育方針と授業計画」を新設し、教育助成金とソニー製品を贈呈しています。また、先進的な教育を行う全国の先生方、学校・園を応援して参ります。



小・中学校の先生への支援

教科を問わず、「将来を担う子どもたち」に必要な資質や能力を考え、「科学が好きな子どもを育てる」活動を行っている小・中学校の教員およびその団体に対しての支援を行っています。

また、優れた実践や研究を教育関係者に広く公開する研修会や、さまざまな分野の専門家・見識者のオンライン講演会を開催し、それらを通じて、全国の教員が学び合い、磨き合う環境づくりをサポートしています。



子どもたちへの支援

科学への興味を深めるため、ソニーグループの技術者が講師となって行う、小・中学生、高校生を対象にした「ソニーものづくり教室」の開催を支援しています。

乳幼児の「科学する心」ネットワーク

「科学する心」の視点で乳幼児期の子どもの「ワクワク・ドキドキ」を見つめながら、さまざまな地域の仲間と保育の実践や悩みを共有し合い、学び合う活動を行っています。会員専用Facebookグループでは大勢のメンバーが繋がり、保育について語り合っています。「明日の保育をともに考える」仲間に、あなたもなりませんか？

<https://www.sony-ef.or.jp/kagakukokoronet/>

保育実践紹介

保育実践論文の入選園の事例をテーマごとにまとめた冊子「実践事例集」と、実践をキーワードやカテゴリで検索できるウェブサイト「保育のヒント」では、オススメの保育実践を紹介しています。

